



第2号

2020年10月発行

西宮市立西宮東高等学校

図書委員会 広報部

特集 読書の秋に読みたい本

「聲の形」 大今良時

大ヒット映画「君の名は」と同時期に公開された映画の原作です。小学校時代、耳の聞こえない少女硝子を、同じクラスの少年将也がいじめてしまうところから話は始まります。

この話は、耳が聞こえないことに対して描くだけでなく、人生とは常に過去が追いかけてくるということに対して、どう向き合うかも描いています。

人に何かを伝える大切さ、難しさを深く考えさせられるお話です。ぜひ、この読書の秋に読んでゆっくり考えてみてください。

「赤毛のアン」 著 モンゴメリ 訳 松本侑子

大人から子供まで幅広く愛され続けるロングセラーです。

カナダのプリンス・エドワード島に住む老兄妹は、男の子を引き取ることにします。しかしやって来たのは、男の子ではなく赤毛の女の子でした。兄妹は戸惑いながらも、女の子を引き取ることにします。しかし子育ては思っていたより難しく…。

長編小説ですが、ぜひこの秋に読んでみてください。

「晩餐会の13人」

著 アガサ・クリスティ

ロンドンに住む富豪エッジウェア卿がある夜、何者かに刺殺されるという事件が発生した。卿は美貌の女優である夫人との離婚問題について係争中であり、その夫人の代理を務めていたのが、たまたまエルキュール・ポワロであった。こうしてポワロは否応なしに殺人事件に関与することになった。事件は連続殺人へと様相を変え、ロンドン警視庁を相手に回して暗中模索するポワロの顔には苦悩の色が映る。初期のクリスティを代表する本格推理小説です。

「君の臍臓をたべたい」

著 住野よる

主人公である「僕」が病院で偶然拾った1冊の文庫本。それは「僕」のクラスメイトである山内桜良が綴っていた秘密の日記帳であり、彼女の余命が臍臓の病気により、もう長くはないことが記されていた。「僕」はその本の中身を興味本位で覗いたことにより、身内以外で唯一桜良の病気を知る人物となる。

「山内桜良の死ぬ前にやりたいこと」に付き合うことにより、「僕」、桜良という正反対の性格の2人が、自分にはないものを持っていることに気づき、徐々に心を通わせていながら成長していく。ぜひ読んでみてください。

「オリエント急行の殺人」

著 アガサ・クリスティ

事件の舞台である、オリエント急行は実在の列車です。小説だけでなく映画やドラマなどになっているこの作品は、列車で起こった殺人事件をもとに話が進んでいき旅気分を味わいながら、あたかも自分がこの世界観に巻き込まれているような気持ちになれます。・トラベルミステリを読みたい・自分でも推理しながら本格ミステリを楽しみたい・古き良き列車の旅の気分を味わいたい人におススメです。

「ようこそ実力至上主義の教室へ」

著 衣笠彰梧 絵 トモセシュンサク

2020年6月現在でシリーズ累計約380万部を突破したこの作品は、最新設備が使用でき、毎月1ポイント1円相当の電子マネーが10万円分支給され、髪型や私物の持ち込みも自由であり、希望する就職、進学先にほぼ100%応える高度育成高等学校を舞台に繰り広げられる新たな学園物語。主人公の綾小路清隆は、その能力と才覚によって、ポイントや権力・利害を巡りうごめく校内のクラス間の激しい攻防や対立、クラス内の陰謀や策略に否応無く巻き込まれてゆく。

ぜひ読んでみてください。